

ポートランド州立大学 活動報告書

文学部比較文化学科 3 年（参加時）

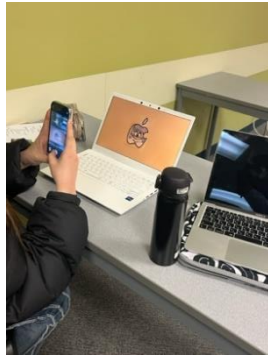
1. はじめに

2 月 18 日から 3 月 11 日の約 3 週間、アメリカ・オレゴン州のポートランド州立大学の語学研修に参加した。3 週間という短い時間の中でどのように語学力向上に努めたのか、またどのような体験をしたのかを「学校生活」「放課後・休日」の点から述べていく。

2. 学校生活

私は当初、American Conversation Culture Program(ACCP)への参加を希望していたが、人数不足の為、Field Study America Plus Program(FSAPP)へ移動となった。私たちのクラスは日本人ばかりだったが、Coffee Hour Event など現地の学生と交流を深めることのできるイベントが沢山あったため、英語力、主にスピーキング・リスニング力を高めることができた。また、私は寮生であったため(ACCP は寮、FSAPP はホームステイ)、夕飯を各自でとらなければならなかった。そのおかげで店頭で 1 人で注文できるようになり、現地での生活に困らない程度の英語力を身につけることができた。

クラスは午前と午後で分かれており、午前中は 9:30-12:00、午後は 13:00-15:00 と普段の大学の授業よりやや長いが、途中 10-15 分の休憩を挟むため時間の進みは早く感じた。午前は American Conversation Class という、主に発音矯正や Body Language の習得、コミュニケーション能力の向上に焦点を置いた授業だった。朝から英語でコミュニケーションをとることにより、休憩時間に友達と話す時さえも英語になっており、英語を身近に感じる事ができた。Final Presentation では、授業で習った Body Language や言い回しを盛り込んだ劇をグループに分かれて披露した。午後は “Plus” Class という、主にポートランドの Pop (Popular) Culture について学ぶ授業だった。このクラスは 2 日に 1 回のペースでフィールドワークが行われ、現地の人にインタビューをしたり店頭に行ったりして「コーヒー」「ファッション」「Portlander」などについて学んだ。また、1 人 1 人の “New words”を毎日クラスでシェアして新しい単語の習得に励んだ。Final Presentation では、グループに分かれてそれぞれポートランドの Pop Culture について発表した。



左：午前クラスでの Final Presentation 準備の様子

右：午後クラスのフィールドワークで行った Never Coffee

さらに、Seattle Tour や Outlet、Columbia Gorge Trip、NBA 観戦といったイベントも多くあり、英語力向上に努めるとともに、アメリカ生活を十分に堪能することができた。



左：NBA 観戦、右：Columbia Gorge

3. 放課後・休日

前述したように私は当初 ACCP 希望であったため、放課後に small group conversation partner session という現地の学生と 1 時間会話できる時間が設けられていた。これは ACCP のプログラム内容の一部であり、そこで自分の好きなことや英語の学び方、発音の仕方などさまざまなトピックについて彼らと会話をした。私たちが会話したうちの 1 人に Grace というインドネシアから来た学生がいた。私は彼女が運営しているラジオに友人と急遽出演することになった。思いもしていなかった機会に私たちは緊張してしまい、発音も文法もぐちゃぐちゃで自分でも何を言っているのか分からなかったが、何か話そう、何か聞き取ろうとしたおかげで英語を話すことへの不安感が一気になくなり、自分の英語力に自信がついた。他の人が決してできないような体験ができたことは今後の自分の自信につながるだろうと感じた。

ポートランド州立大学には、学生がボウリングやビリヤードを楽しむことのできる施設

やジムが備わっており、私たちは放課後にボウリングをしたりジムに行ったりと有意義な時間を過ごした。休日は寮のみんなで古着屋やポートランドで有名な本屋“Powell’s Book”に行ったりと、ポートランド内を電車やバスを使って移動した。自分達で慣れない土地を移動できたことに感動し、どこに行ってもきっとやっていけるだろうと自信がついた。



左：ラジオ出演時の様子、右：ボウリングゲーム

4. 最後に

当初は 3 週間という短い時間で果たして自分の英語力は伸びるのだろうかと不安に感じていたが、沢山の現地の人たちと話していく中で、言葉が通じる喜びを感じることができ、それが自信につながっていった。単語が分からなくてもジェスチャーや文脈で通じることや、文法はそれほど重要ではないこと、話そうとする姿勢が英語力向上へつながることを身に染みて感じた 3 週間だった。私は大学卒業後、1 年間のオーストラリアでのワーキングホリデーを予定しているため、現地で 1 人で買い物できるようになったことはとても大きな自信になった。今回の語学研修で繋がった現地の友人たちと定期的に連絡を取り合い、助けてもらいながら、今後も英語力の向上に努めていきたい。

